

# 潮騒通信「どっこい生きてます！」

## 潮騒の器に収まらない人たちの増加に悩む日々

読者の皆さま、お変わりありませんか。潮騒JTCには、いろんな問題を抱えた人たちが全国から集まります。訳ありの依存症患者たちですから、施設内では世間の常識では考えられない多様な問題が起こります。もともと決まりを守る事がとても苦手な人たちに、規則や管理の強化は意味をなしません。辛抱強く時間を掛けて、彼らの内面の成長を促すことが全てです。社会で当たり前に行きられるよう順法意識を育て、優しさや思いやりなど人間的な感情を取り戻すために、施設としては少しでも前向きに回復プログラムに取り組めるよう下支えし、過ごしやすい環境整備に努めるしかありません。

しかし、どこの世界にも既存の器や規格に収まらない人たちがいます。このところ潮騒JTCでは「もしかして、この人は発達障害かな？」と思わせる入寮者が多くなり、よくトラブルを発生させます。どうやら、ダルクや潮騒JTCの器には収まり切らず、従来のように「自分たちの反面教師となる病気が深い人たち」と手放して入寮を歓迎できないのです。多くは矯正施設からつながる依存症メンバーで、厳しい規則と管理で押さえつけられた反動からか、施設内の決まりともいえない常識的な決め事を簡単に破ります。

彼らはうまく人間関係を築けず、普通なら受け流せる些細な物事にこだわり、いたずらに入寮者との軋轢を生みます。困ったことに暴力的な傾向が強く、依存症にとっては大敵のパワーゲームに酔いしれるタイプです(過去の私を見る思いですが…)。しかも、なぜか徒党を組みたがります。自分を正当化することにたけており、へ理屈で周囲を巻き込みながら“不満分子”の仲間を募って、公然と「反施設」行為に出ます。結局は自分たちの居場所や行き場を失くしていることに気づかず、感情の赴くままに行動して、またもや高い塀の中に逆戻りです。とても空しく、辛く悲しいことです。

社会との中間に位置する潮騒JTCは、吹けば飛ぶような弱小零細の民間施設です。外圧に頼らなくても、その気になれば内側から簡単に壊せます。今、潮騒ではダルクの基本とも言える「治療的なスリップ」の原則を貫くことがとても危うい状況にあります。病院でも矯正施設でもなく、自助グループを基本とする数少ない治療共同体の生命である「何度でも失敗を認める」「必ず立ち直れると信じる」ことが、世知辛い世の中の流れに抗しきれず、とても危うくなっています。アルコールはともかく違法薬物は司法機関による処罰が不可避で、そうなるとう潮騒JTCでは手に負えません。でも、私は回復への希望を捨てません。40年の依存症歴を持ちながら60歳でも回復できたのですから…。行ける所まで行こうと思います。(施設長 栗原 豊)

# SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2013(平成25)年

2月号 一部100円

## Contents

- P1 器に収まらない人たち
- P2 護国院で恒例豆まき
- P3 秋元農場を視察研修
- P4 初の農業講演会を開く
- P5 依存症看護学会参加
- P6 クリーン10周年を祝う
- P7 近藤氏インタビュー10
- P8 全国受刑者からの便り
- P9 続・受刑者からの便り
- P10 入寮者しおさい俳壇1
- P11 しおさい俳壇2特選句
- P12 行事予定&献金献品

2011年度ファイザープロジェクトからのお知らせ

潮騒ファイザープロジェクト報告書  
生活保護受給者から  
納税者へ

特定非営利活動法人  
生活・アルコール依存症回復施設  
潮騒ジョブトレーニングセンター  
http://shosai-jtc.com

報告書ができました。希望者には送料のみ負担で配布します

# 「鬼は外！福は内！」 護国院で豆まき

## ＝段ボール箱やかご持参で景品の“福”をゲット＝

節分の2月3日、鹿嶋市宮中2丁目の真言宗智山派の名刹、護国院で節分祭（追儺難式）が開かれ、栗原豊施設長や潮騒JTCの仲間たちが参加し、恒例イベントを楽しみました。



と一緒に登場し、かごや段ボール箱などを持っている参加者たちに向けて、「鬼は外！福は内！」の掛け声に合わせて即席ラーメンなどの景品をまきました。

特設会場下で待ち受け

鹿嶋の節分といえば、鹿島神宮が毎回テレビや新聞で大きく報道されますが、実は鹿島神宮の陰に隠れて？ 近くの護国院がたくさんの景品を拾えるとあって、近くの市民には静かな人気なのです。



午後6時から始まった節分祭では、本堂で30分ほどの祈祷があった後、豆まきをする参加者たちが境内の特設ステージの壇上に登場。毎回参加している元プロボクサーの竹原慎二さんや畑山隆則さんなどの有名人が登場すると、境内からは歓声が上がりました。今回で3回目の参加となる栗原施設長は一般参加者

ていた潮騒JTCの仲間たちは飛んでくる景品の“福”をゲットしようと、段ボール箱やプラスチックのかごを持って我先にと競い合って拾いました。約10分ほどで節分祭は終了しましたが、仲間たちは獲得した景品を手に満足そうな表情を見せていました。

栗原施設長は「ともするとリハビリ施設は起伏のない生活になりがちにだけに、季節感のあるこうした節目のイベントは大事にしたい。それに市民との交流にもなるし、潮騒のデイケア施設から近いのもありがたい。護国院の節分は意外と穴場なので、結構みんな景品を手にする」と話していました。(崎)



恒例の節分祭で、かごや段ボールを持参して景品の“福”をゲットして喜ぶ潮騒JTCの仲間たち＝鹿嶋市宮中2丁目の護国院

# 「あきもとふぁーまーず」を視察研修 ＝「潮騒農場」の運営にヒント得る＝

精神障害者やアディクト（依存症者）の回復を支援する農場経営の手法を学んで「潮騒農場」の運営に生かそうと、潮騒 JTC の農業隊メンバー有志と支援者ら6人が1月21日、千葉県鎌ヶ谷市初富の農場「あきもとふぁーまーず」を視察研修で訪問しました。前年度に続き継続支援を受けている「潮騒ファイザープロジェクト」に盛り込んだ先進施設研修の一環で、当初計画より前倒して実施しました。



農場内にある作業小屋で指導員の職員から説明を受ける潮騒JTCのメンバー

同農場は、全国でも数少ないアルコール依存症者の専門病棟を持つ秋元病院が運営する農場で、社会復帰のための「中間施設」に位置付けられています。病院担当者の説明では、依存症者の社会復帰への取り組みとして、病院→デイケア→あきもとふぁーまーず→企業などの一般就労、の形で社会復帰を目指して取り組んでいます。現在、農場運営の中心は精神障害者の方たちで、アルコール依存症者らアディクトは少数派だということです。

日本では、まだまだアルコールや薬物などの依存症者に対する誤解と偏見が根強く、彼らが社会復帰するには“一般社会”のハードルが非常に高く、「再チャレンジ」をしたくてもできない現実があります。そのため、同農場で自然と触れ合いながら、農産物を育てることで農業の魅力や達成感を味わい、就労への意欲を高めているようです。



この日、潮騒の視察メンバーは全体説明を受けた後、さっそく車で5、6分ほどの同農場に向かいました。周囲には住宅地が広がっていますが、農場はいろいろな冬野菜が栽培されている畑や四季折々の花木が植えられた庭などで構成されており、農産物の加工・出

荷場も備えています。地域景観とマッチした特徴ある農場で、農作業に携わるメンバーが意欲的に作業に取り組めるようにハード・ソフトの両面から環境整備で工夫されているという印象を持ちました。

農場の担当者（デイケア活動で陶芸を指導している職員）から農場運営に関しての詳しい説明を受けましたが、「アディクトたちが農作業をする際に必要なトイレ、水道、駐車場などのインフラ整備が必要」と見落としがちな点に参考になる助言を頂きました。

「作業には向き不向きがあるので、参加メンバーの持ち味などを考慮して“適材適所”に配置することも大事です」とも話し、依存症者に対する配慮では「長時間労働は無理。こまめに休息を取ることも大事」とアドバイスをくださいました。また、農場が住宅地に隣接していることから、話し声や臭いなど近隣住民が「迷惑」と感じる行為は厳禁、との説明も目から鱗でした。作業中のメンバーからは、農作業を通して「充実感、達成感が出てくる」との話を聞き、今後の潮騒農場の運営に生かせる手がかりを得ました。（勝）



「あきもとふぁーまーず」内の売店で、秋元病院の担当者から説明を受ける潮騒JTCの視察研修メンバー

# 地元プロ農家を講師に初の農業講演会

## ★専業農家の小松崎清さん「失敗を恐れない農業」を助言★

潮騒JTCが前年に引き続き、今年1年間をかけて取り組む「潮騒ファイザープロジェクト」で中心事業に位置付ける農業についての講演会が1月30日、鹿嶋市宮中のまちづくり市民センターで開催されました。農業講演会の開催は潮騒JTCにとっては初めての取り組みで、今後も随時開く予定です。この日は病院への通院組らが参加できなかったものの、入寮者約50人が潮騒農業の指導者を務めているプロの農業者の話に耳を傾けました。

### ●日頃から農地との対話と手入れを

この講演会は、潮騒JTCの仲間たちに農業の魅力を知ってもらい、農業プロジェクトへの参加を促すために年間計画のスタートに当たり開かれました。初回は「今農業は面白い～依存症に希望の光!!」と題し、地元で専業農家として活躍し、潮騒JTCの農業指導者でもある小松崎清さんに講師をお願いしました。小松崎さんは潮騒の第2農場（「潮騒青塚農場」）の運営について指導・助言してくれている根崎彰さん（鹿嶋市議会議員）の農業の「先生」でもあります。

小松崎さんは、地元の農業高校を卒業して鹿嶋市内で、「農業は土づくりから」をモットーに、創意工夫して地域の風土やニーズあった農業に取り組んでいます。好好爺の風貌ながら、農業者としての信念と自信を感じさせます。この日は質疑を交えて約1時間、農業経験で得た貴重な話を披露してくれました。

### ●まずは挑戦し、そして一生懸命に

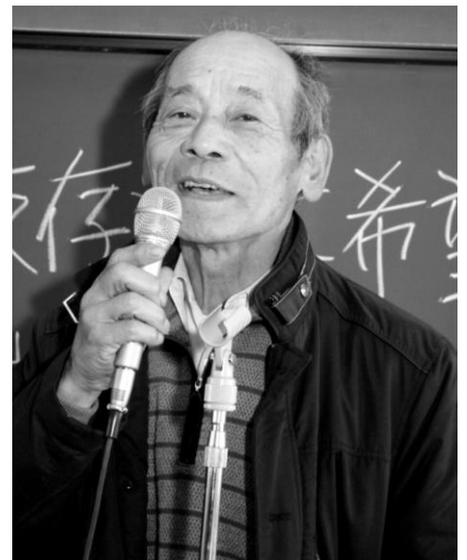
小松崎さんは「野菜は人間と同じ。ただ口がきけないだけ」「毎日畑に行って“何が欲しいんだ”と聞くこと」を促し、日頃から農地との対話と手入れを怠らず、慈しむことを説きました。「米を作って上手な人、大根、ジャガイモを作って上手な人がいる」として農家によって得意分野があることも強調し、「米、大根、菜っ葉を作るときには各分野の農業が上手な人に教えてもらうのがいい」とも助言しました。

さらに「種まきは一番簡単なようで一番難しい」「種をまく時期、堆肥を入れる時期など、50年の農業経験から季節ごとに作物が何をほしがり、食べるかはよく分かっている」とも話しました。作物の種まきの時期などの具体的な説明を加え、農業の初心者が多い仲間たちにも分かるように説明してくれました。小松崎さんは「今の時代は『99%頭を使う農家』じゃないと生き残れない」としながらも、「夢を持って（農作物を）

作んなきゃいけない」「失敗を恐れず新しいものに挑戦するのも大事なこと。ただし（作物の育て方に関する）勉強は怠らないでほしい。まずは挑戦すること。そして一生懸命やればいい」と述べました。

### ●栽培が簡単な多品種の野菜作りを

小松崎さんは、潮騒農業プロジェクトで今年取り組む青パイヤ栽培に期待を寄せながらも、「天候に左右されるので完全なものではない」「手のかかるものはもうからない」「気持ちに余裕のある農業を実践することが大事」「四季を通じて比較的栽培が簡単な多品種の野菜作りを」と求めました。



これは、ともすると一つのことに病的にのめり込みすぎ、人やモノとの適度な関係を築けないアディクトの生き方の対極にある考え方です。これに対する自覚と反省が依存症回復のポイントでもあることから、小松崎さんの志向する農業の在り方は、潮騒が取り組む農業プロジェクトの方向性と合致するもので、今後の展開に期待をうかがわせました。

### ●「目標を持って」と根崎さんアドバイス

小松崎さんの講演を仲介してくれた根崎さんは、自身も農業に関わっていることもあり「農業は土を作ること。作物を育てるのは夢を育てること。種をまくのは、その作物の近い未来を予測すること」と述べ、「農業に限らず目標を持って」と、仲間たちに社会復帰に向けた目的意識を求め、励ましてくれました。（山）

# ～日本アディクション看護学会研修会に参加～ 病院側も中間施設の役割に期待

「アディクション看護 何を指すのか」をテーマに、平成24年度・日本アディクション看護学会(松下年子理事長)の第4回定例研修会(秋元病院アルコール家族会との共催)が千葉県鎌ケ谷市の秋元病院を会場に開かれ、潮騒 JTC から栗原豊施設長が報告者として登壇し、施設の現状などを訴えました。

初めに安田美弥子氏(東邦大学大学院看護学特任教授)が基調講演し、その後にパネル討論に移りました。パネリストを務めたのは同病院のアルコール専門病棟看護師長、アルコールデイケア看護師長、相談員、アルコールデイケアメンバーで、それぞれ直面する課題などを報告し、会場の参加者からも質問を受けました。松下理事長も「援助職者がいかに自立しているかが大事」と助言しました。

このうち相談員の藤田良氏(精神保健福祉士)は、最近の依存症治療の困難な現状に触れました。アディクションの患者が、若い人は人格障害を併発していたり、高齢化したアルコール依存症患者が認知症だったりと多様化している現実と、病院の治療プログラムが乖離していることを問題にし、「それぞれに合った援助プログラムが求められている。施設や自助グループとの連携も深めたい」と力説しました。

後半は、アディクションに関わる中間施設の代表ら



が登壇し、それぞれの回復支援活動を報告し、会場からの質問に答えました。

報告者は、潮騒 JTC のほかに▽サルビア▽千葉ダルク▽和歌山断酒道場▽ワンステップ(山谷マック)▽RD デイケアセンターで、12ステップグループの活動が中心でした。千葉ダルク代表の白川雄一郎氏は「出口がないからダルクのたらい回しが増えている」として、今後は中間施設として社会復帰に向けた支援が求められることを訴えました。この問題にファイザープロジェクトで取り組んでいる潮騒 JTC の栗原施設長は「40年も依存したアルコールと覚せい剤の後遺症に今も苦しんでいるが、支援者や仲間たちに支えられて施設運営ができています」と話しました。(市)

## =あなた方が主役です。2月誕生日の仲間たち=



左からコジ、カツ、エゾ、ユタカ(栗原施設長)、レイナ、ノブユキ、ニシの皆さんです。今やすっかり潮騒の“顔”となったコバさんも2月生まれですが、なぜか今回は写真なしです。

# クリーン10周年と古希祝う

## 栗原施設長の「サプライズパーティー」関く

潮騒JTC創設者の栗原豊施設長の「クリーン10周年記念と古希(70歳)祝い」のパーティーが11日、鹿嶋市宮中の潮騒デイケア施設で開かれました。栗原施設長には内緒で企画された“サプライズパーティー”で、当日は新しく入寮したメンバーの紹介が行われていました。続いて栗原施設長による潮騒JTCに関する説明が終わった頃合いに、クラッカーが鳴り出し、サプライズパーティーが始まりました。

まず入寮者の仲間から「施設長のおかげでここまでやってこ

れた。ここは回復の訓練の場。貴重な居場所で回復を目指して訓練できている幸運に感謝し、社会に戻れるようにしたい」(コバさん)「2年半前に新宿で施設長と会った。(当時は)お酒をやめたいと思ったが、止まらなくなった。なんでクリーンが続くのか、それは仲間や施設長がいたから」(トムさん)など、栗原施設長に感謝の言葉が送られました。

スタッフからは「10年前、小田原の少年院まで面会に来てくれ、『マコト、頑張れよ』と声を掛けてくれた。今まで助けてくれたのが栗原施設長だった。感謝しています。」(マコトさん)「20歳のときに(栗原施設長と)かかわった。物事を継続するのが苦手だが、

潮騒では3年続いている。これがハイパーパワーなのかなと思う。回復のための器(潮騒JTC)を作ってくれた施設長や仲間のみんなに感謝してます」(ヒトシさん)と栗原施設長への感謝の言葉が続きました。



これを受けた栗原施設長は、刑務所を出所してから現在までの10年について「あつと言う間の10年だった」と振り返り、「人として生きられていることに素直に感謝したい」と語りました。

2月13日で古希を迎えたことについては「70歳という節目の年を、こういう形で祝ってもら

えて人生最大の喜び」「同じ目的を持った仲間の中で生きている喜びを分かち合い、ありのままの自分で生きられる」と喜びの表情を見せました。

「もし、ダルクと関わっていなかったら？」との質問には「(刑務所の中で)獄死するか、または廃人になるかだろう。どっちにしろ人間としては終わりだった」と答え、「過去の自分の生き方は虚勢を張り、鎧(よろい)を付けて仲間から孤立した。それが今では、施設の仲間と一緒に生きている。しかも、今苦しんでいる仲間に回復の手助けができています。まさに奇跡の人生です」と感激を込めました。

また、栗原施設長と同じく古希を迎えた入寮者のシンさん(潮騒ファイザープロジェクト指導者)と、潮騒スタッフのオノさんも一緒に、古希を祝ってもらいました。オノさんは2011年12月から潮騒で働いていますが、「日々新しい発見がある。支援する内容や方法がそのたびに違うので頭を使う。試行錯誤の日々」と語りました。福祉関係の仕事に約30年携わった大ベテランですが「福祉の仕事はやればやるほど喜びを覚える。自分も成長する」と述べ、「ここで必要とされている限りやっていきたい。神様が与えてくれた最後の仕事」と話してくれました。(み)



# 近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL10

みんなベテランのアディクトだから自分の薬が良く分かっている。薬の知識は半端じゃない

## ●15分も聞いていたら商売にならない

—現代社会の病理とも言える「心の病」を反映して、精神科の処方薬依存が増えています。ダルクでも無視できない重たい課題ですが…。

近藤 増えているのは、生活保護（医療扶助）と精神医療の絡み合いによってだろうな。これによって安易に薬が処方されている。病気なんだから薬を出しましょう、ってね。薬を出すためにはカルテに病名をつけなければならない。処方箋を出すために病気をつくっているような悪循環に陥っている。

医者も、患者を3分間で診るのには薬を出すのがいい。特効薬だから。患者の話を15分も聞いていたら、それこそ医者一人で100人以上をこなさなくてはいけない。1日にそれだけ診なきゃならないなら、15分も問診していたら商売にならない。そうするとどうするか。手っ取り早く薬で片付けちゃう。患者から15分話を聞いたからって、診療報酬が高くなるわけではない。高くないのなら薬となる。だって回転を早くしたほうがいいじゃないですか。どうせヤク中だから薬が欲しいから医者に行くんだから。「先生のところ行けば薬を出してくれるから」が本音で、「病気を治してくれるから」という人はいない。みんなベテランのアディクトだから自分の薬が良く分かっている。薬の知識は凄い。一つでも薬が違っていたら大変だよ。そういう人は…。

—背景に、日本人特有の絶対的な薬信仰を感じます。「いい薬」とよくいうけれど。薬の本質は毒を持って毒を制する、ですよね。

近藤 本当に困っている。悪化していくばかり、薬の量はどんどん増えていく。

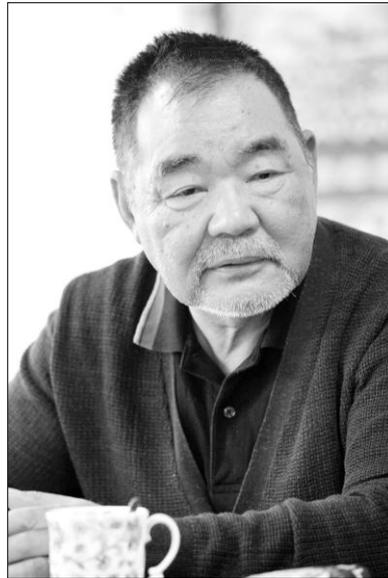
## ●刑務所は依存症の受刑者を悪化させる？

—薬物依存症の治療で薬物療法は矛盾そのものですよ。病院ができるのは「断薬」でしかなく、「霊的な目覚め」には至らない。反自然の極地とも

いえる薬物依存を、最後は自然治癒に委ねていく。結局は心の在りようの問題だから、病院ではダイナミックな回復ビジョンにつながらない。

近藤 心がよどんでいるとな、感性がそこに行かないんだよ、絶対に。それをぼくは、いろんなところで、いろんな施設を見て感じるんだよ。日本ほど施設に薬が蔓延している国はない。最近では刑務所でも薬出すようになったでしょう。受刑者だって病気を治す権利がある、人権だとね。ひどいケースでは刑務所から出てきて禁断症状、パーキンソン症になっているケースもあるからさ。

—刑務所は犯罪者の矯正につながっているんですかね。人権への配慮は当然ですが、こと薬物依存症に対しては病気を悪化させかねない。刑務所に限らず、施設がヤク中を育てる感じがありますね。



近藤 最終的に刑務所はおとなく寝ててくれればいだけ。それこそ犯罪傾向の「強い」奴らは独居だから。多分、表にも出ていかない。作業もしなくていい。そんな人ばかり。ぼくがメッセージに行った刑務所ではドッチボールができない人たちが1300中2~300人はいる感じだった。いわゆる障害者といわれる人がな。別な刑務所なんかでは受刑者が入るときに、「おい、こんな刑務所みたいなところに入らなくてよかったな」といっている人たちがいるんだよ。こ

れから刑務所に入る、っていうのにだよ。笑うに笑えない、刑務所の認知さえないんだから。

でも、そのくらいならまだいい。壁に向かってひたすらニタニタ笑っていたり、便器に顔を突っ込んだままのがいる。それが150人ぐらいっていうんだ。まあ3千人もいりゃあ、いろんなのがいる。全体でみると、本当に病気は増えちゃっているよ。

—そうすると、実態に合わせるなら、医療刑務所みたいなものを全国にもっとつくらないといけませんね。 (次号に続く)

## 全国受刑者の皆さんからの手紙～潮騒通信「とっこい生きてます！」を読んで

### ■本当に薬物をやめたい。どうか私を助けて

初めてお便りを致します。「薬物を私と一緒にやめませんか」という内容の手紙を栗原さんから頂きましたが、私は自分の力でやめられると思い、返事を書きませんでした。しかし、出所が間近になるにつれ、「本当に自分一人の力だけでやめられるだろうか…」と不安になりました。テレビの報道番組で潮騒 JTC が取り上げられ、その中で「私達は依存症から回復を願うなら、どんな人でも受け入れる用意がある」との映像を見て、そちらでお世話になりたい、と思うようになり、こうしてお便りをしています。栗原さんが今でも私を助けてくれるのなら、どうか手紙のやり取りをさせてください。引受人になってもらえるのでしょうか。どういうふうにしたら薬物と向き合っていけばいいのでしょうかも教えてください。私は本当に薬物をやめたいのです。どうか私を助けてください。(北海道 F・H)

### ■親や姉、内妻、友人が私の帰りを待っている

初めてお便りします。私は37歳です。2年前に窃盗、覚せい剤、大麻で捕まり、懲役2年が確定し、こうしてお務めしています。以前に栗原さんから手紙とパンフレットが送られた時には、「まだ先の事」と思っていました。しかし、満期まで後1年となり、面接が入りました。自分も本当に先の事を考えなければ、と思うようになりました。私には幸い、親や姉、内妻、友人が私の帰りを待っています。家業の仕事も決まっています。私は今回、3度目の刑務所生活です。4度目はないよう、薬物を本当にやめたいのです。栗原さんから良い意見や指導をお聞かせ頂けたら、嬉しいです。(福島県 K・K)

### ■人間ヤル気次第で変わるんですね

自分は薬を始めてからというもの堀の中の生活が長くなり、社会でもどんどん信用がなくなり、友人も減っていききました。本当にやめたいのですが、やめられるかと心配です。日々、自分との闘いをしなくてはいけないのだ、と思います。近藤恒夫さんの「拘置所のタンポポ」の次に岩井喜代仁さんの「大丈夫。人は必ず生まれ変わる」を読みました。岩井さんの本は自慢話っぽくとれてしまう所がありました。岩井さんは近藤さんの一言で薬に溺れてしまい、そしてやめるのも近藤さんのお陰と、

不思議な縁ですね。2人ともダルクになくなくてはならない人となり、たくさんの人間を救い、回復を助けています。人間ヤル気次第で変われるのですね。ロイ神父に出会い救われた近藤さん、岩井さんもドネガン神父との出会いがとても大きかったと記しています。人と人との出会いって大事なことです。同じ目標に向かっていく仲間がいるということは、とても強いことです。「今日一日」ですね。負けず嫌いの自分なので、同じ目標に向かう仲間たちがいれば、それが支えになり、スリップすることなく過ごしていける気がします。(広島県 K・Y)

### ■栗原さん、どうか私に力を貸してください

私は今回で刑務所5回目、今回は覚せい剤(使用、所持)で5年の刑でした。そして今度こそ出直したいと思ひ、どうしたらいいかと悩んでいます。まだ妻と籍が入っているのですが、近いうちに別れるつもりです。妻も刑務所から出たばかりなのですが、私が他に女をつくったりして妻を裏切ってしまったので仕方ありません。

私には故郷に祖母がいます。父母は私が3歳の時に別れていて、祖父母に育ててもらったので、父母のことは分かりません。私は今回で、本当に刑務所を最後にしたいので祖母に身元引受人を頼んでみたのですが、ダメでした。叔父(父の弟)に頼んでもダメで、手紙を出しても拒否されてしまいます。それもこれも私がバカばかりやってきた罰だと思っております。保護会にも何度か頼んでいるのですが、やはりダメで本当に情けなくなります。今まで本当にちゃらんぼらんだと深く反省しています。私は本気でクスリをやめたいのです。クスリで何もかも失ってしまい、

本当にバカだったと思っています。仕事も長続きせず、自分でもどうしたらいいか、正直分かりません。栗原さん、どうか私に力を貸して頂けませんか。ラストチャンスください。今度こそ本気で立ち直りたいのです。できることなら栗原さんの下で頑張りたいのです。クスリの経験者としてできる仕事があれば、ぜひスタッフとして働かせてください。(北海道 S・H)

### ■待っているのは刑務所、病院、墓場だけ…

…検事、弁護士にも「また、あなたやるよ、99%捕まるよ。賭けてもいいよ」と言われました。自分でも、確



かにそうなるかな、と思いました。また、出所して以前のような生活を続けていたら、待っているのは刑務所、病院、墓場だけだ、と。もう、こんな人生嫌です。本気でピリオドを打ち、自分と向き合って新しい第2の人生を再出発したいです。今度こそ本気でクスリをやめたいです。今回で3回目なので親とは絶縁状態で、頼れる友人、知人はもう一人もいません。出所してから行く所もないです。恥かしい話ですが、栗原さんに助けてほしいのです。  
(東京都 W・K)

### ■塀の中でも潜在意識は強く覚せい剤を求める

先日、覚せい剤を使った夢を見ました。途中、目覚めました。暫くは夢が現実か認識できなかつたのです。初めて経験するフラッシュバック？ でした。寝起きの無防備な意識といえども、使いたいという強い衝動を覚えたのは事実でした。塀の中でも潜在意識は強く覚せい剤を求めて止まぬもの、その魔力の一端を垣間見る想いです。

止め続ける為に自己改善に自身を「ただ使いたい」という暴虐な自分が呑み込む瞬間でした。反発し合う2人の私。この心は間違いなく病んでいます。以前、ご指導頂いた神の意志がなぜ必要なのが少し解りました。また、逆もしかり。この深層心理が解るといことが、依存症なのでしょう。(北海道 K・T)

### ■僕が潮騒へ行きたい理由を改めて考えてみた

僕は拘置所で栗原さんからの手紙を貰って本当に助けられました。何度も何度もクスリで失敗して、刑務所を行ったり来たり。友達にも家族にも相手にされなくなり、相談する人もなく、帰る場所も何もない。何をどうしていいのか分からなくて、淋しくてたまらなかつた。

僕が潮騒へ行きたい理由を改めて考えてみました。まずはクスリを止める為です。一人では止める事ができずに何度も何度も失敗しているので、同じ悩みを持つ人達と一緒に止められる可能性が大きいと思います。もう一つはクスリを止める大変さや刑務所へ行ったり来たりすることの辛さ、それでもクスリを使ってしまう弱さやジレンマなど、すべての事を理解してくれる人がいる、という点です。依存症の人がクスリを止められずにいる心理は、たとえ友人や家族であっても解らないと思います。そして、もう帰る場所がないというのも理由の一つです。  
(北海道 K・Y)

### ■どうすれば前向きに考えられるのでしょうか？

最近、考えていることがあります。出所後に再びスリッパしてしまうのではないかと考えてしまうのです。正直、もうやりません、懲りました、止めたい、等と言うのは簡単です。が、正直、今まで止めたいと考えて助けを求めてきましたが再使用し、信用をなくし、自分自身嫌になっています。色々と考えてみましたが、多分今までの薬物使用、その他の受刑等で大切な者や物を失い、私にとって余りに大きいものを失い、2度と手に入らない者の為、投げやりになり、結果薬物への依存と進み、抜け出したくても、半ば諦めていたのだと言えます。

今回はもう大丈夫と軽々しく言えないし、言いたくもありません。どうせ駄目なのではないか？ 駄目ならば、迷惑を掛けない方がいいのではないかと等と悪い方、悪い方へと考えてしまうのです。どうすれば前向きに考えられるのでしょうか？ 実際10代から不良の世界に入り、真面目？ に不良をしていたものの、後はクスリの売人に明け暮れ、自分では歯止めが利かず、正直、自分にまったく自信がありません。また自分がクスリを再使用して迷惑を掛け、信用を失う事も嫌なのですが、自分自身が傷つきたくないのかもしれない。クスリを止め続けて楽しい事は何に変わりましたか。酒もダメ、ギャンブルもダメ、女性との付き合いもダメ…、出所するとき私は47歳。何を目標として、何を楽しみとして生きていいのか？ 漠然として答えが出てきません。私の悪い癖で、どうしても長生きできないのだし、と刹那的な考えになってしまいます。どうすれば、この答えの出ないジレンマと落ち込みを抜け出し、目標を持てるのでしょうか。

(北海道 I・K)

### ■仕事を続けることの大切さを33歳になって知る

毎回、潮騒通信ありがとうございます。親父(=栗原施設長)の思想、熱意は今後の回復施設界を大きく変えて行くと思います。人間は恨み、憎しみ、邪(よこしま)な動機でもいいから目的や志を持たないとダメだと思います。人にとって仕事を続けることが多くを学び、人を成長させ、自分を支え、他人を支えているか、その大切さを33歳になり気づきました。人は一人では生きられないし、誰も「お陰様」の中で生きているんだと考えました。因果応報です。努力は意志の強さに比例して必ず現実となります。親父のやっていることは素晴らしい活動です。  
(富山県 N・K)



～1月句会作品から～

# しおさい俳壇

～選者＝桐本 石見先生～

## 酒呑むも初夢で先ず安心す

(コバ)

一般の人なら初夢に酒を呑むのは目出度いが、研修中の身であれば酒はご法度。しかし、それ程に酒を呑みたいと夢に思う。酒は百薬の長とも云うが、過ぎれば毒でもある、俳諧の哀れを思う句。

## 叶うなら二十歳に戻る初夢を

(オノ)

中学生くらいになると早く大人になり何とかして見たい思いになるが、五十才も過ぎると二十歳の頃に返りたいと、つくづく思う様になる。それは体力的な衰えを感じるからでもある。初夢でなくも実感の句です。

## 初夢に富士を目指せる我が身かな

(カト)

初夢の中でも富士山の夢は一番縁起が良いとされる。その富士山を目指して登るのは面白い。夢は希望的なものと、寝て見るのがありますが、出来るだけ叶う夢でやりたいものです。

## 寝正月枕の下に宝船

(かつちゃん)

正月には初詣や家族で何かの見物にでも出かけたりするが、歳を重ねると寝正月が良い年もある。それに良い夢でも見たいと宝船の絵を枕に敷いて寝る。これも俳諧の一句で面白い。

## 初夢にお屠蘇を飲んで飛び起きる

(ヒロ)

潮騒に暮らす方にはお屠蘇(とそ)と云えどご法度、それだけに辛い研修の身であり、夢にも呑みたいと思う。人は無い物ねだりと云いますが、無くなる欲しくなる。これも一抹の哀れを思う句です。

## 初夢に百まで生きて喜べり

(長吉)

原句は少し変えましたが、これで作者の意も汲み取れた句になるかと思えます。俳句は抽象的より具体的な方が解り易いですし、実感の句になります。人も百歳を生きれば大慶と云えます。

## 初夢やあの人思ふ恋心

(アーサン)

日頃から思う人があれば、その結実として夢にもその人を見る。現実と夢が重なる事もあるが、それだけ思いを籠めた恋も良いと思う。初夢に恋の夢も縁起の良い一つかも知れない。叶うと喜ばしい。

## 初氷身体に沁みる寒さかな

(サカ)

海岸部に位置するこの鹿島では氷の張るのも遅いが、県都の水戸などは早い。日影や山陰に初氷を見ると気持ちだけでも寒さを思う。また今年は何年以上に寒気も強く寒さを思う。氷に映る朝日も眩しいが、身に染む寒さの実感の句です。

## 初夢を頼杖ついで思い出す

(おとつ)

朝夢は現実にあったことなどが多く正夢とも云い、覚えていられることも多い。嫌なことや恐ろしい夢はうなされて目覚めることもある。しかし、多くの夢は忘れるか覚えていない。良い初夢なら思い出そうと頼杖にしばし考える、実感の句です。



「しおさい俳壇」に掲載する潮騒入寮者による定例の俳句会は毎月、鹿嶋市宮中のデイケア施設内の会議室で開かれています。参加メンバーの投句をそれぞれが互いに批評し合い、最後に桐本先生が解説を加えてくれます。比較的、高齢者が多く、中には過去の受刑中に俳句に親しんで、なかなかの技量を持つ年輩入寮者もいます。俳句を含め文芸活動を潮騒JTCの特徴にしたいと考えます。

しおさい俳壇・秀逸句コーナー

鼻水を初夢ともに拭ひさり

(ポチ)

初夢には出来るだけ縁起の良いことを望むが、そうでもない事もある、夜も寒く朝方に鼻水も出た。夢も見たが、あまり良くなかった。鼻水ともに拭いさるに、可笑しみると哀れの籠る一句です。

初夢や追いかけている仲間の背

(トム)

夢は見たい夢よりも意味不明のものが多く、それだけに富士や鷹の夢は縁起が良いのかも。仲間が何所かの道か街を行く。その背を追い掛ける夢何時までも追いつけないで目が覚める。面白くロマンのある句です。

見てみたい一富士二鷹三茄子

(イチ)

初夢を縁起の良い順に、それを一度に全部見たいと云うのも面白く、それが夢でもある。茄子(なすび)の後は四扇五煙草六座頭と云う。末広がり、上上がる、毛が無い、などの縁起に由来するとか。なかなか見れない物を願うのも夢で面白い句。

初夢や涙してみる故里よ

(ユ)

選者もそうだが故郷を離れて久しく、もう帰る事も無いと思う。その故郷を初夢に見る。涙が出る。夢でなくも歳を重ねて見る里は、諸々の事が思い出されて懐かしく、何年ぶりに帰郷すると涙を誘う。しみじみとした句です。

初夢の胸に秘め置く笑みのあり

(ユタカ)

何か良い事か、それとも少し秘密の初夢か、他人には云わないで胸の内に秘めて置くが、それでも笑むほどの夢なのだ。他人に告げる夢よりも、胸に仕舞う方が叶うかも知れない。女性なら少しの艶冶を秘めて面白いのが。

秀逸句コーナー

おめでとう!!  
今月の特選句です

初夢は富士の鷹より家族かな (トミー)

一富士二鷹三茄子が初夢の縁起の順だが、それよりも家族の夢を見たいと願う。人それぞれに願いや夢は異なるが、極まるどころ平凡にも家族と共に在るのが幸せと云うべきであろう。しみじみとした句です。

離別し子初夢に歳数えみる (カツミ)

歳選者も戦争遺児で写真でしか父を知らないが、一度父に甘えたり喧嘩でもしたいと思ったことがある。この句は父が子を思う句だが、離別のお子さんも父を思う日があるに違いない。初夢だけに切々した一句です。

初夢に三途の川を渡りけり (トシ)

三途の川は、死後七日目に渡る川で三つの暖急があり、生前の業の如何により渡る処を異にする。また岸に脱衣婆などの鬼が着衣を剥くと云う。初夢は目出度い事が多いが、これは空想かも知れないが、日頃の思いの結実かも知れない。諧謔の一句でもあります。

何を見む枕に沁みの夢初め (ラッキー)

初夢は正月二日の夜の夢を云うが、必ずしも良い事ばかりではない、この句の様に朝起きて見ると枕に涙の沁(しみ)みがある、どんな夢か覚えがないが、哀しい夢であったのだろうか。それ故(は)く(の)絵を枕の下に置くととも。

# Information

## 行事予定 (2月中旬～3月初旬)

- 2月9日 日本アディクション看護学会研修会  
秋元病院第4回研修会
- 10日 秋元病院メッセージ (16日も)
- 18日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 21日 潮騒俳句会 (しおさい俳壇) 2月例会
- 24日 とかちダルクフォーラム
- 24日 潮騒家族会
- 25日 潮騒2月誕生会
- 3月1日 桜川市・真壁のひな祭り見学 (女性メンバー)
- 3日 山谷マック30周年記念セミナー



## 献金を頂いた方 (2月15日現在)

- ▼小岩井 重光様 (株・小岩井商事)
- ▼内堀 高良様

## 献品を頂いた方 (2月15日現在)

- ▼高田 武義様
- ▼千葉菜の花家族会様
- ▼栗原 浩子様
- ▼内堀 高良様

のほか匿名の皆様からも献品・献金を  
いただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は  
全員の方に同封させて頂いております。  
どうぞご理解の程をお願いします。

【施設側からのお願い】潮騒 JTC では入寮者の急増  
に対応して中古自動車の献品を求めています。格安  
で譲っていただくと助かります。なるべくワゴン  
車がありがたいです。宜しくお願いします。

## 編集・発行

特定非営利活動法人

### 潮騒ジョブトレーニングセンター (本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号  
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10  
TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

### 潮騒リカバリーホーム (中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号  
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16  
TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

### 潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-MAIL [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

## 編集後記

早春を告げる梅の花が咲き誇る季節になりました。厳しい寒  
さもやっと和らぎ、縮こまった体と心が少しずつ解きほぐされ  
る感じです。今号6ページでも報じていますが、今年は栗原施設長  
が薬物やアルコールに頼らない新しい生き方に踏み出して 10  
年の節目を迎えました。とても重みのあるクリーンタイムです  
が、依存症者の歩みはあくまで「今日一日」の積み重ねです。  
栗原施設長は「運命の糸に導かれてダルクで回復でき、こうし  
て鹿嶋の地で日々、仲間と共に回復を続けられていることを素  
直に感謝したい」と話しています。70歳となり、加齢による肉  
体の衰えは隠せないようです。このところ幻覚幻聴や内臓疾患  
等に悩まされて満身創痍の日々だけに、「目の前のトラブルに  
振り回されて感情がかき乱されるとつい、“ここで一発打てば  
楽になるなあ”と今になってもクスリ(覚せい剤)の欲求が消  
えません。そんな時、自分を正気に戻してくれるのが仲間との  
ミーティングであり、潮騒に漂着した新しい仲間の存在です。  
彼らの怪しい顔つきやひどくヨレれたしぐさが反面教師とな  
り、素面の自分を引き寄せてくれます」と話しています。(市)

発行所 郵便番号一五七〇〇七三  
東京都世田谷区砧六―二六―二一  
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会  
定価一〇〇円  
(会費を含む)

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。